

平成27年度「わくわく節水コンクール」における取組の報告

熊本市立飽田南小学校

1 宣言

前年度は、プールの補修工事があり、水道の使用量がかなり少なかったが、使用量が増えすぎないように、節水に心がけていきます。

- ①水道の蛇口は、こまめに閉めます。
- ②掃除の時、バケツの水の量を半分以下にして使用します。
- ②水やりをするときはペットボトルを、歯磨きをするときはコップを使用するなどして使用する水を少なくします。
- ③雨水をためるタンクを活用して、植物の水やりをします。

2 行動の取組と記録

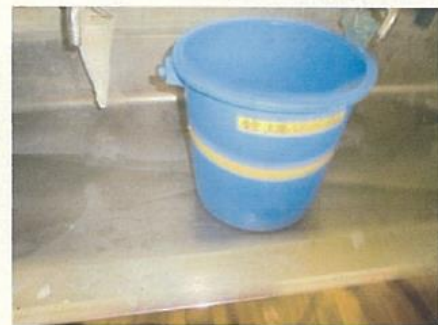
① 水道の蛇口は、こまめに閉めます。

本校ではここ数年にわたり、環境美化委員会を中心にエコ運動を行っている。その一つとして、水道の蛇口をこまめに閉めることを呼びかけている。例えば、手洗い場・トイレなどに節水を呼びかける標語やポスターを貼り、節水意識を高めている。

また、掃除で使うバケツの水は、バケツ半分以下（テープ）を目安として水の入れ替えを行っている。これは、特別支援学級も指導を行い、以前から節水への心がけを身に付けている。しかも、水の量が少ないと軽くなるため、児童にとって使いやすい。



【手洗い場に貼っているポスター】



【特別支援学級のバケツの汲み置き】

② 蛇口をいっぱい開かず、「鉛筆1本の太さ」の水を使います。

児童が蛇口をひねる回数は、1日10～15回程度である。学校生活を通して、手が汚れた時や風邪予防の手洗い、トイレ後、給食前の手洗い、給食後の歯磨き、掃除の時のバケツの水替え等一人一人が何回も経験している。

そこで、水の出る量を「鉛筆1本の太さ」と、児童に分かりやすい言葉で、各担任や環境美化委員会が中心となって呼び掛けている。掃除の時にバケツに入れる水の量は、半分位にして使うように



【掃除の時のバケツの水替えの様子】

心がけて取り組んできた。本校は平成22年度に「節水チャレンジ小学校」に応募し、節水コマを取りつけていただいたおかげで、以前は、児童が蛇口をひねる時、水が白く濁るように出したり、水を出したまま話に夢中になったりしていたが、今ではそのような姿は、ほとんど見られなくなった。

③ 雨水を利用して、植物の水かけをします。

毎朝、環境美化委員会や4年生以上が中心となって、学校のプランターに水かけをしている。その際、「雨水くん」を積極的に活用し、有効に利用している。「雨水くん」を利用することで、節水に十分役立っていることを学びとっている。また、互いに「雨水くん」の水を利用している様子を見ることで、低学年の意識づけになっている。



【「雨水くん」を使う児童】



【「雨水くん」で水かけをする児童】

④ 4年生の節水学習の出前授業

毎年4年生は、社会科の水の学習の一つとして、水保全課の「節水学習」出前授業を受けている。ただ授業を受けるだけでなく、節水に関心を持ち、今後の生活に役立てていくため、水検定を4年生全員が受験して、家庭でも節水活動を広めていけるようにしている。その結果、4年生全員がこの出前授業を受けているため、高学年から低学年へ熊本の地下水を大切に使うという「節水」の意識を広げることができている。



【出前授業を受けている様子】

3 見直し

今年度の「節水実践」の活動は、本校の昨年度までの反省から出発している。例えば、「節水の意識を1年間継続していくことが難しい」という反省をもとに、今年度も、教師だけが子どもたちに節水意識を持たせていくのではなく、日常的に児童同士で声かけしていくようにしてきた。(昨年度は、プールの工事のために水の使用量が極端に少なかったが、本年度は、プールの水の使用があったために、かなり増えている。)

来年度は、熊本市が取り組んでいるように、子どもたちの節水の頑張りが目に見えるように棒グラフ等で表していきたい。がんばりが目に見えることで、やる気が出てくると思われる。また何より、水を出しっぱなしにすることや無駄な水を使うということももったいないという感覚を子どもたちに身に付け、教師と子どもが一体となって、節水に努めていきたい。